

## 日英語の比較：愛好に関する表現

(A Comparison of Japanese and English: Expressions of Fondness)

Kiyoshi Noguchi(野口潔)

Sophia University(上智大学)

kiyoshi\_noguchi@hotmail.com

### はじめに

この発表を行うきっかけになったのは、日本語学習者の発した以下のようなやや不自然な日本語である。

(1) 「りんごは好きですか」の質問に対して)

はい、ときどき好きです。【初級学習者：アメリカ人】

(2) 母さんの誕生日のために僕は花を買ってあげて母さんはそれを大好きといいま

した。【中級学習者：アメリカ人】

日本語では、普通「好き」が「ときどき」などの頻度を示す表現に修飾されることはない。また、(2)のような突発的に湧き上がった感情を「好き」で表現することもしない。

これらの不自然な表現は発話者の母語である英語の影響によるものと考えられる。英語では、“I like apples sometimes”と言えるし、花束をもらって、もらった人物が“I love it”と言うのはごく自然な表現である。

本発表は、好みや愛情に関する表現が日英間でかなり誤解されたまま定着してしまっていることを示すものである。日本語の「好き」や「愛する」は「持続的感情」のみを意味するのに対し、英語の like と love は「持続的感情」だけでなく「一時的感情」をも表現できる。また、日本語のそれは「突発的感情」を示せないが、英語のそれにはできる。さらに、英語の like は日本語の「好き」と比べると、より積極的な感情を示す。これらのことが十分理解されていないと、一見単純にも思える感情の交換がぎこちないものになってしまう恐れがある。

また、寺村(1992)が指摘しているように「英語では話し手や聞き手が文の構成要素として表面に出てくるのに、日本語ではそれがいわば話の舞台の背後にかくれて、あたかも客観的な事象の説明、性質の規定を述べているに過ぎないように見える場合がある」。日英の愛好表現の比較から、まさにこの点が如実に表れていることも示す。

## 1. 持続的感情と一時的的感情

日本語で、「バナナが好き」と言えば、何かのきっかけで嫌いにならない限り、それは「ずっと好き」ということであり、上にも述べたように「時々好き」などと言うことはできない。「愛する」も「我が子を愛する」と言えばやはり持続的感情であり、「時々愛する」というと日本語の場合は感情でなく、「かわいがる」とか「愛撫する」などの「行為」を意味することになり、やはり、一時的な感情を示すことはできない。しかし

一方、英語の like と love は「一時的感情」を示すことができる。この違いが逐語的訳を難しくし、日本語学習者が上に示したような不自然な日本語を発話することにもなる。

以下、この点に関する例をいくつか検討する。まず、上でも触れた例を見てみる。

(1) I like apples sometimes.

これを「好き」を使って、下のように言うことはできない。

(2) \*りんごは時々好きだ。

Like は動詞であり、「好き」は形容動詞である。日本語の「好き」が「時々」で修飾できないのは、この品詞の違いが原因の一つと考えられる。そこで、動詞「好む」でテストしてみる。

(3) ?りんごを時には好む。

確かに、like の示す意味合いにより近いものと思われるが、「時には好む」で終わってしまうところに違和感が残る。それに硬い表現にしかならず、普段使う表現としてはふさわしくない。

日本語らしくするには下のような言い方をする以外ないだろう。つまり、一語で(1)の like の原義を崩さず、言い換えるのは難しい。

(4) りんごは時々食べたくなる。

(5) りんごは時々好んで食べる。

英語の like は、物に限らず人に対しても一時的感情が表現できる。

(6) I like him sometimes.

日本語では食べ物の時と同様、(7)のようには言えない。

(7) \*ときどき彼が好きです。

「好む」はどうか。

(8) ??彼を時には好む。

「りんご」の場合より不自然である。また、「好む」には、もう一つ「好色」の意味があるため、(8)のように言うと肉体的に好むというような意味が含まれる。(6)を日本語で言うとなると、(9)のように言う以外ないように思う。

(9) ときどき彼を好ましく思うことがある。

Love は冗談のように言うのであれば、like 同様、次のように言える。

(10) I love you, sometimes.

Love は like より強い愛情表現であるため真剣に愛情を表現する場面で(10)は不自然だが、時々嫌いにもなるという意味で言うことは可能である。

日本語の「愛する」はどうか。

(11) \*君を時々愛している。

直接相手に向かって言う場合、「時々愛している」は英語のような意味を含まず、不自然である。

(12) 彼女を時々愛している。

このように、第三者に関して言う場合、それは、上にも述べたように、感情ではなく行

為的意味になってしまい、感情表現とはならない。

ちなみに、日本語で英語と同じような一時的感情を示せる愛情表現は「恋する」である。

(13) 彼女は今でも時々恋をする／恋をしている。

「恋する」が「好き」や「愛する」とは違い一時的感情を表現することがこれによって良く分かる。

寺村(1992)が指摘するように、英語の表現は、“I love you”のように話し手が明示され、感情が直接聞き手に伝わる印象があるが、日本語では例文(4)(5)(9)のように話者が前面にはっきりとは出ない、そのため、感情的というよりはむしろ何か客観的な事象の説明のように感じられる。

## II. 突発的感情と非突発的感情

英語では、急に湧き出した気持ちを示すのに like も love も使用できる。しかし、日本語の「好き」「愛する」には出来ない。

(14) (友人が新しく着てきたシャツを見て) I like your shirt.

(15) (プレゼントにシャツをもらって) I love it.

日本語の「好き」と「愛する」にはそれができない。

(16) (友人が新しく着てきたシャツを見て) \*君のシャツ好きだよ。

(17) (プレゼントにシャツをもらって) \*これ大好き。 \*\*愛してる。

人が身に付けている物や所持しているものに対して「好き」という言葉は使わない。また自分がもらった物に対して湧き上がった感情を「愛する」で表現することは一切ないし、「大好き」もふさわしくない。もちろん、依然から好きだったケーキなどをもらって「これ大好きなの」というのは自然だが、始めて目にしたものに「好き」は使用できない。確かに、下(18)(19)のように言うことはあるだろう。

(18) 彼を突然好きになった。

(19) 彼女を見た瞬間好きになった。

しかし、これらは「なる」という状況変化を示す動詞があるため、「好き」自体に突発的感情を示す要素があるとは言えない。

ちなみに、日本語で(14)(15)を日本語らしく言うには下の(20)(21)のようなものがふさわしいであろう。

(20) (友人が新しく着てきたシャツを見て) そのシャツ良いね。

(21) (プレゼントにシャツをもらって) とても気に入った。

また、英語では下のような突発感情に love が使用される。

(22) (お茶に誘われて) I love to.

当然、日本語では「好き」も「愛する」も使用できない。

(23) (お茶に誘われて) \*大好き \*\*愛してる

下のように言うのが適当だろう。

(24) (お茶に誘われて) 喜んで

このように、英語 like, love と日本語の「好き」「愛する」の意味要素に大きな違いが見られる。

そして、ここでも英語の表現は直接的であるが、一方、日本語の表現は、英語と比べると話者の感情が読み取りにくいことがあるということが分かる。例えば、(20)はそれが顕著である。(20)はシャツの評価をしている。「良い」という評価であるから、話者はそれが気に入ったであろうことは読み取れるが、英語のように直接判断できるものではない。

### III. 意志的感情と非意志的感情

英語の like には意志的要素があるが、日本語のそれに相当するであろう「好く」「好む」にはそれが見当たらない。「愛する」と love はこの点では共通しており意志的要素を含む。

英語の like はもともとあまり好まないものを好きになるように努力するという意味を持つ。下(25)は、自分の娘が連れてきたボーイフレンドがどうも気に入らないという父親に対しての母親の発言と父親の返答である。

(25) Wife: Try to like him.  
Husband: I will.

(26)は祖母の作るシチューは嫌いだと言っている子供に対する母親の発言と子供の返事である。

(26) Mother: Try to like her stew.

Kid: I will mom.

これら二例とも、will は未来ではなく、意志を示す助動詞と考えられ、その後に省略された like も意志的要素を含むと考えられる。日本語の「好く」「好む」は下に示したように意志的要素を持っているとは言いがたい。

(27) \*彼を好こうと努力する。\*彼を好もうと頑張る。

(28) \*彼女のシチューを好こうとする。\*彼女のシチューを好もうとする。

もちろん、「なる」を介して「好きになる」は自然な日本語になる。

(29) 彼を好きになろうと努力する。

(30) 彼女のシチューを好きになろうと努力する。

しかし、これは「なる」という動詞に意志的要素があるからであって、「好き」が意志的要素を含むとは言えない。

Love と「愛する」は下に示したように、供に意志的要素を含む。

(31) Try to love kids.

(32) I will love his song.

(33) 自然を愛そう。

(34) 後妻の連れ子を愛そうと努力した。

#### IV. まとめ

以上、本発表は好みや愛情に関する語彙が日英間でかなり異なった意味合いを持つことを示した。以下にそのまとめを記した。「？」印のあるものは今回テストしていない部分であり、恐らくそうであろうという仮定の部分である。

	持続的	一時的	突 発 的	非突発的	意 志 的
Like	○?	○	○	○?	○
Love	○?	○	○	○?	○
好き/好む	○	×	×	○	×
愛する	○	×	×	○	○
恋する	×	○	○	○?	×

この表が正しいとすると、英語の like と love は好みと愛情の様々な状態、状況を表現できる広義語であり、日常の好みと愛情はこの二語さえ知っていれば何とか言えるほどである。対する日本語の好みや愛情表現はかなり細分化されており何でも屋的存在の語彙は見当たらない。そのため、日本語学習者はこの点を理解し、様々な好みや愛情表現を使い分けることが求められる。

#### IV-1. 補足事項：I love you honey

良く知られているように、アメリカなどでは男女間、家族同士などで I love you をよく使う。日本では若者でも普段「愛してる」を使うことはあまりないだろう。柳父氏(2001)は、元々漢語である「愛」は書き言葉ではあっても、まだ話し言葉としては熟しておらず、口に出すのは恥ずかしい言葉だ、と言っている。確かに「愛」はそのような存在であろうが、和語である「好き」も同様に英語の I love you のように頻繁に愛の表現としては使われない。民族的あるいは文化的な理由もあるだろうが、上で何度か指摘したように英語で好まれる直接的な感情の表現方法と日本語で好まれる客観的であたかも事象を説明するような表現方法の違いが件の理由の第一に挙げられるのではないだろうか。そして、更に推論するならば、love の持つ意味要素にも理由があるのではないだろうか。つまり、love は一時的感情、或いは突発的感情を示しえる言葉であり、今日も I love you、明日も I love you と頻繁に使用する必要があるのではないか。確かに、Love にはキリスト教の言うアガペー（神の愛）の意味があり、それは一時的感情や突発的感情とは違うものと言えるだろうが、日常使用する Love の意味から考えるとむしろ、一時的で、突発的な意味の方がより強いように思える。だとしたら、日本語の「愛している」と違い、I love you が示す感情は持続性のないものであり、言われた方に見れば、いつまで続く気持ちなのか心もとないと感じる表現なのかもしれない。あくまでも推測である。

## 参考文献

寺村秀夫(1992) 「寺村秀夫論文集Ⅱ一言語学・日本語教育編一」くろしお出版

柳父章(2001) 「『愛』一語の辞書」三省堂